

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



善行錄

上

栗原滿啓輯録

武州河越善行録

製本所 萬笈堂

698
母

河越善行録序

竊意に能く書具此流を知たものは其果了
智河の所必を能く敏行の美を思ふものは其志
に仁ある所必を里柳昔堯帝此時舜の德行所
考するも復亦然矣其時に而て詩書を以て
唯其志の仁あるを以て即入典從一里何必詩書
禮樂に熟して後仁了るんやその父頑母嚚
象傲小して克く諱ふに孝を以て信ふ是の詩也

恭に——其行也致に世にハ將に美を——これを
得んや今也川裁邑の満成齋七十九歳既子
葦編三絶織燭三折に——昔の跡を述に其
男博ハ序を余に請ふて曰吾父已老矣古者老
教事をうへりこれと恥つて預り世書速に國人
に讀しめん事を欲せしけし一云の孝志暫是——
而予書を掲て見れり川裁官下は孝悌忠信
の氏二十有條人其力行諄に教ふるも史孝悌は

一云

好生の徳也好生の徳民心に洽ふ世書成徳む人
嘗て怪ふらんや誠小波敏行を知りてその満成齋
なるを觀る人猶香臭れ滋を知りてよく誰れ其
節を励ました——何為哉

文政二卯年八月

家上徳内

河越善行錄跋

人君之治民夏謂之蒲盧周謂
之政蒲盧即土蜂之別稱以能
化名之政即心之明訓以能正稱
之人君自明明德以能化其民此
之謂蒲盧也自正其身然後能
正其民此之謂政也故君賢明於
上然後民化正於下矣苟君不賢

明則民不能得而多善也今河越鄉
黨之民率善而孝子忠良甚多
者以賢君在上故也醒山翁亦其
民也翁之為人清廉慈恤邀拔乎
眾愛善之心最深矣乃患夫孝
子忠良之名朽而欲為之傳忘
勞不厭苦遠問通求遂得其記
三十有餘條矣乃欣然而感之夕

脩章句以成文朝執筆以書之
取以成編分以為三卷題曰河越
善行錄頌壯者以上本使孝子忠
良之子不行愛善之心不亦最
深矣乎且此書行於海內則能
使天下後世感興焉公羽之功豈
不大矣乎其子讓畔稱之而亦已
曰我翁八句而有此事使余作

とるる文化文政よるる忠孝乃聞え
數輩阿るる少いとも書籍のうらみ見
えされと歎らるる世より湮滅しる知
人せし能ん事乎僕是れ悲むと茲よ
年阿るる遂に已るると之を阿るる國民
能傳乎輯録せし尔凡三十有餘人を
得るる題して川越善行録とす
此書と觀て感動す人も阿るるを

忠孝と世ふ弘毅乃一助とや
僕素とるる不學ふして文の拙き如く
南に在る認誤業亦鮮うらざらざし
高覽能諸君これ乎見赦し給へ
只忠孝いみじき名り幸よ世よ
朽ぶるる事乎欲せ云事しる
り

文政二年己卯秋

七十九夜醒山栗原滿成識



武洲川越善行錄卷上目錄

桶屋伊右衛門牙子長八

寺井岩熱之米

沖屋右衛門下男七之唐

迎江屋守右衛門

武洲川越善行録卷上

川越 栗原滿啓集録

桶屋伊右衛門才子長八

五笑町桶屋伊右衛門才子の家の長八とて才子をく

河屋生を吉田村権太の子とて十二三歳乃時よりか

ける志りに伊右衛門の近年病なり桶屋の細工も

長八をくみせむげける伊右衛門半ハ平生受ける

かゝる者も少くも酒のうへをれをさあしをそ上桶造る

業もやあゆむゆるゆゑ酒まじり日をおとせと碎てる承

上ノ一

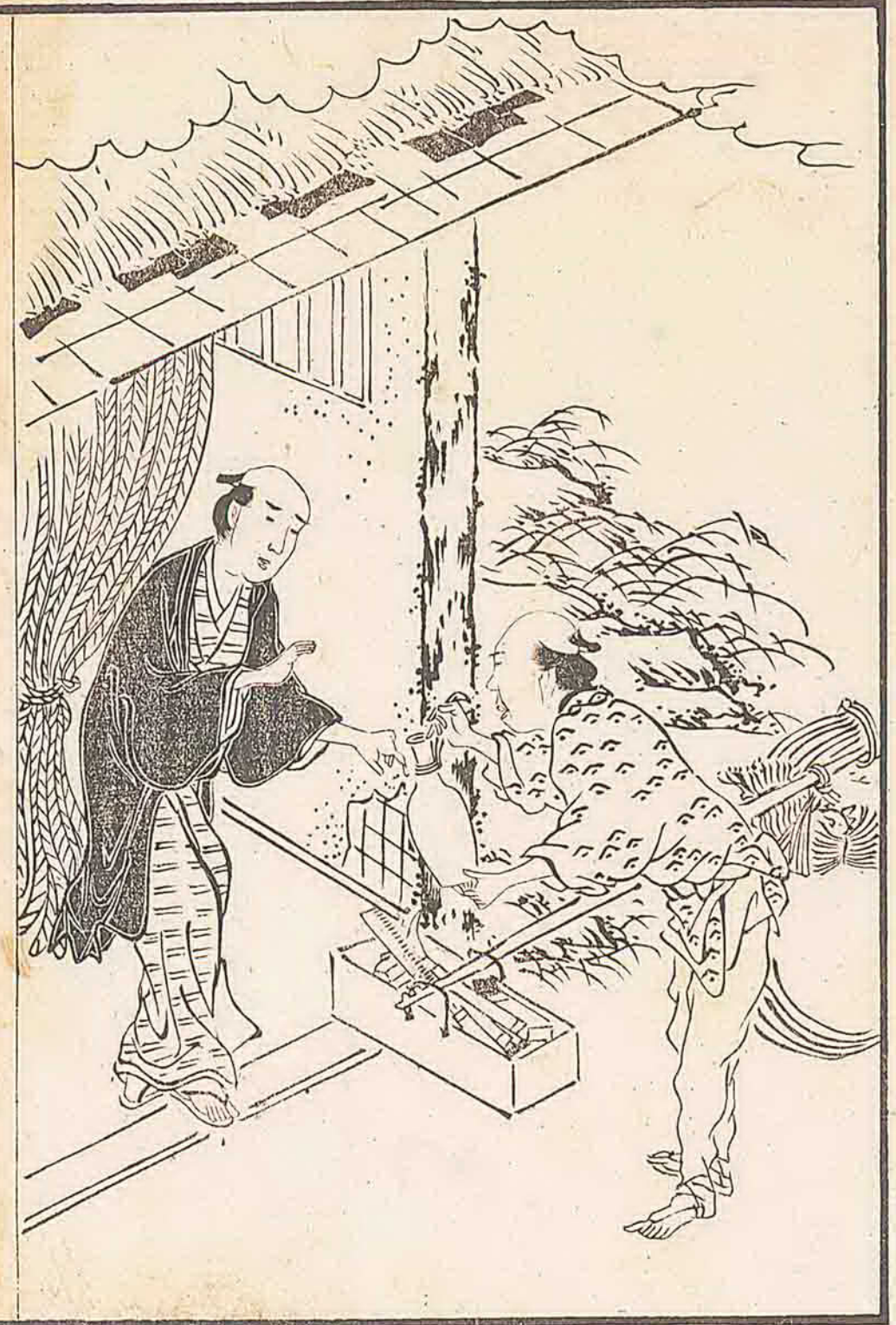
あ〜〜親類正所の妻も〜とみまを〜とさんぬるは月中
 父孫を諸姉當せりその折〜長ハ中けるヤ〜
 職分の師とたのみ妹は幼少のころより侍志〜とみ
 何さう〜は恩はらげ〜家父よし〜を何國までもは
 侍り家職をたごみはら〜後やもあともなをねん百つれ
 のさたま〜と中られ侍ち侍つが〜そのころ後〜はかど
 けれ〜ゆ〜とせと今父親の勤を世に我父それバ
 ぞ〜衆の〜が〜はら〜はら〜年光〜父母以
 ろ〜だ〜れ〜す〜い〜き〜バ〜ハ〜ま〜や〜法〜老〜人〜を〜家

上ノニ

登補も〜と〜あ〜も〜は〜ん〜が〜け〜ん〜侍〜れ〜バ〜
 つ〜ぎ〜ゆ〜も〜及〜ぶ〜中〜は〜〜〜の〜若〜あ〜り〜は〜を〜人〜の〜半〜ハ〜中〜
 西翁才その〜と〜あ〜ゆ〜も〜は〜る〜自〜由〜に〜を〜今〜と〜り〜の〜ち〜何〜を〜以
 う〜を〜日〜を〜お〜ろ〜れ〜ゆ〜と〜し〜れ〜づ〜自〜別〜き〜道〜を〜箱〜を〜ら
 有〜い〜て〜伊〜太〜衛〜つ〜より〜さ〜ね〜し〜出〜け〜る〜叔〜伊〜太〜の〜り〜を〜川
 紙を辭れ志らぬの人とあるは〜は〜一〜我〜は〜ま〜け
 長ハも〜も〜に〜お〜ら〜つ〜日〜と〜せ〜り〜あ〜ら〜は〜の〜と〜料〜を〜あ〜
 伊太のをや〜れ〜い〜ら〜あ〜ら〜長ハ衣被〜も〜も〜着
 め〜ら〜ま〜お〜て〜烟〜草〜の〜む〜より〜を〜何〜も〜何〜も〜身〜に〜つ〜け

中さび細工も相恋よりけりける早みやげとて伊太衛門が
 好る酒をととのふづきかたける伊太衛門の酒よ後とびり
 け有極を足る人すむと長八がよきおなまらめぐるかり
 んよ志うさる年こいのうてさよかたて長八ハ年月とし拔
 るるといふも義人金石のごとくまうも志う伊太衛門を
 んごとも折る酒もそのしき先ける志うに吉田村
 の父権太衛門巳の株葉月の泣きまづひて酒よお邊の
 中へ消えとる長八もおどき悲しむといふもせんさ
 なくお邊のおと里そあつよとれかて権太衛門酒

上ノ三



相續の半親類より母人をとりめ相談しける
又男子あれば日を暮しそ長ハ父の名権を傳へし改め
母人妹あんと長育のめ農業をなげ百姓をつむ
産きよにお禮さしけり志くれバ俵七兩つたつこの
そ一ヤほつりける去程ハとかく伊右衛門半一
もや外くおのれえ持あむくもつたれ行末以つた
もんもをそがごと是より船と乾益のるを耕作
がみ費ハ桶の細工を出情この價をほをそ
月毎は多目費文或を費入る文づ毎月伊右衛門

かこおらほはうて飢をそあせごけりけるけ始末
天道の御恵みいらどるく國乃 政府はまこと
免され村長たる者一法をりけるふもハが実行ある
かざりけきバもごころハ未若予を賜てその忠誠を
磨賞し終ふ于時寛延四年未六月十六日の事
ありまき

寺井宿惣々傳

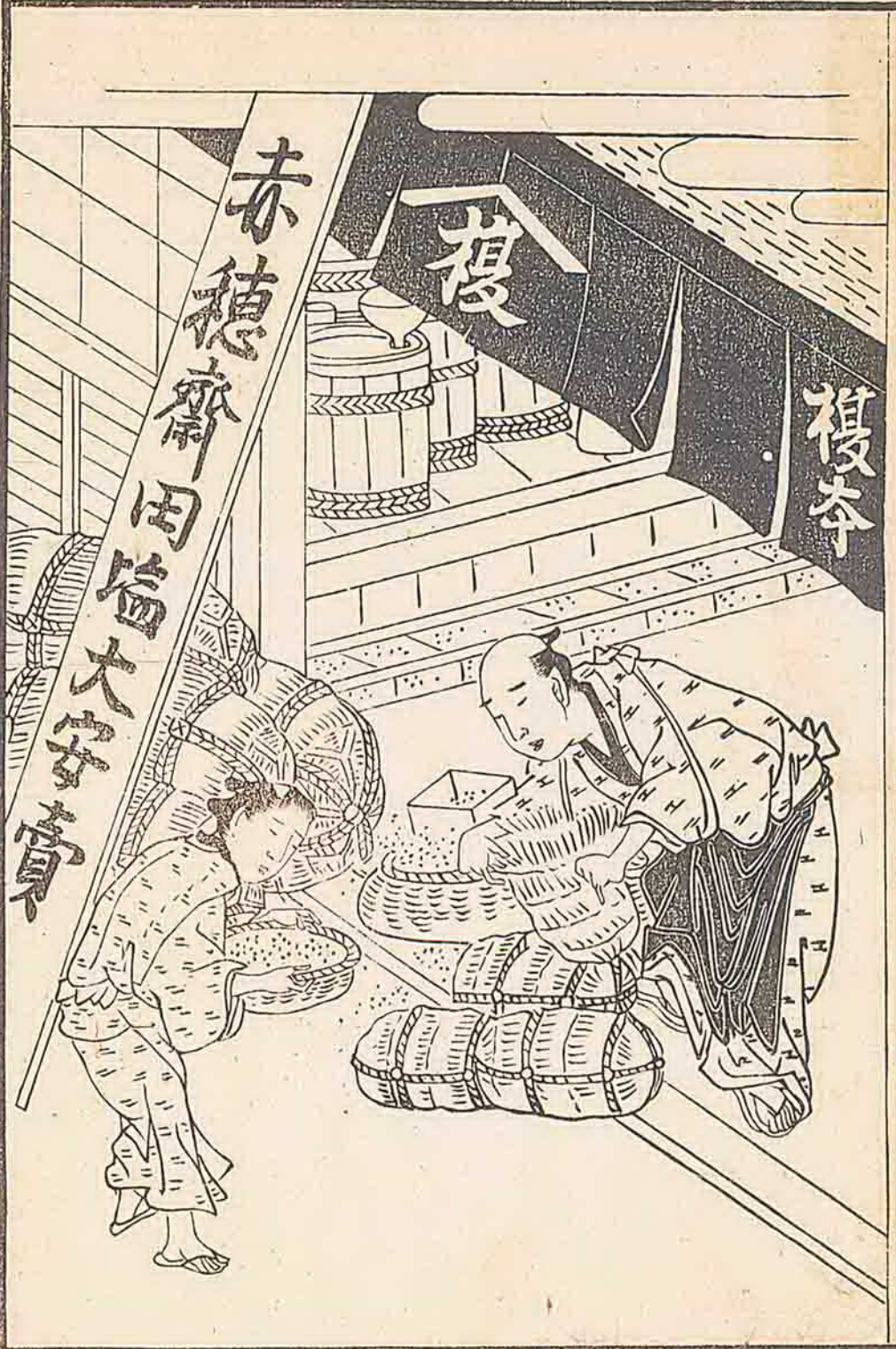
川越市城下町法をそ井名といふ所は表た南門とて
田畑十はふ石をそる百姓ありは者らもれつて貨物小

志す百姓侍察にも考合を候〜近所のくも
佛と好んさふ〜く〜耕作の業もい出候〜
〜ける森左衛門四十六七歳乃ちら書あや病
即〜候ふを〜せよ〜け首熱き候もやう〜
十二日申来までおされをらから〜養育農業者〜
の養育農業者〜さ〜候〜まゑやうやう老女を
や〜いおされよ〜女抱農業者も手傳ひも〜
月を〜送るける志〜に森左衛門病気のやまひ持
病となり折々悩めることおほく百姓のまごも並〜

上ノ五

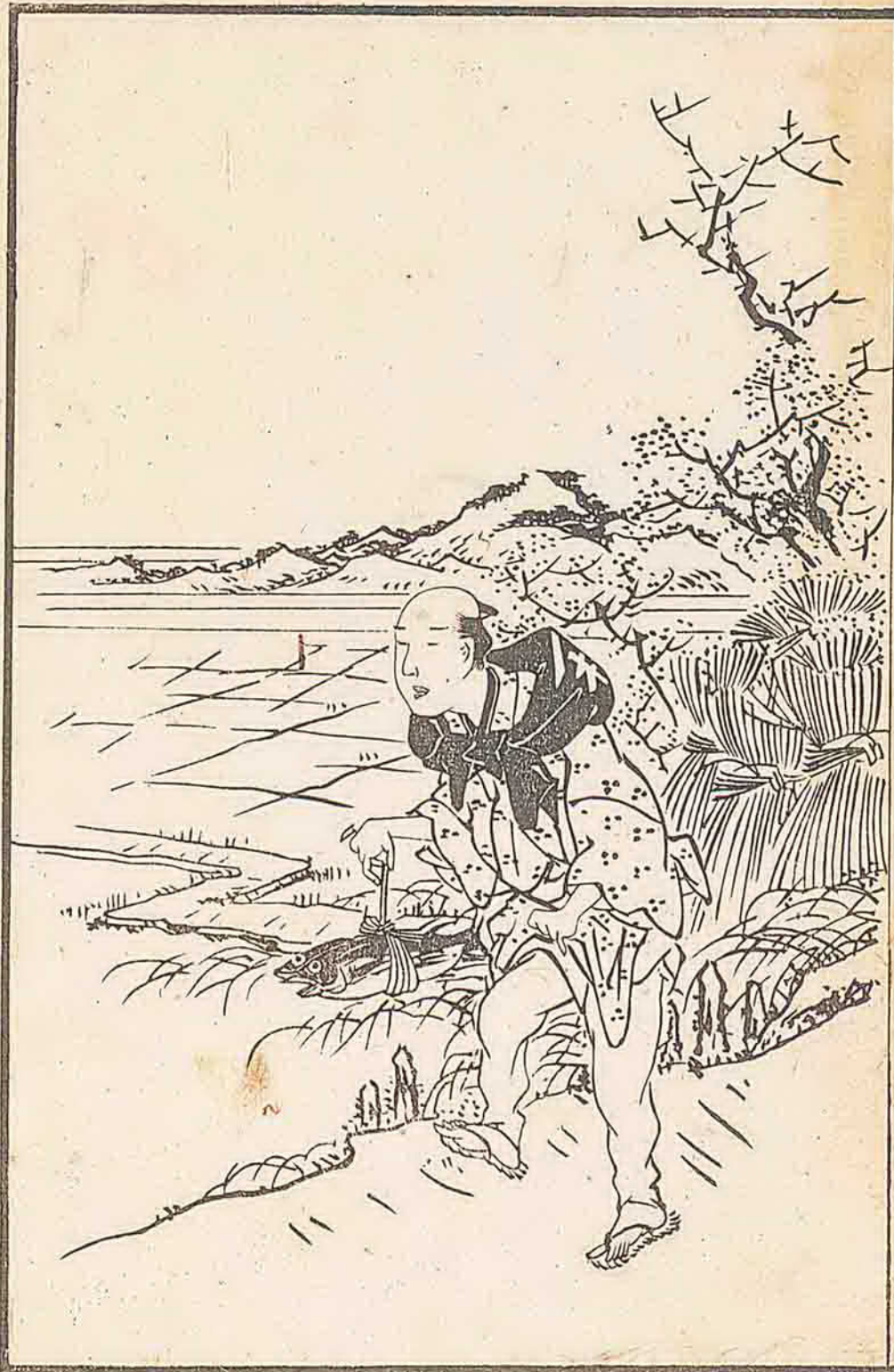
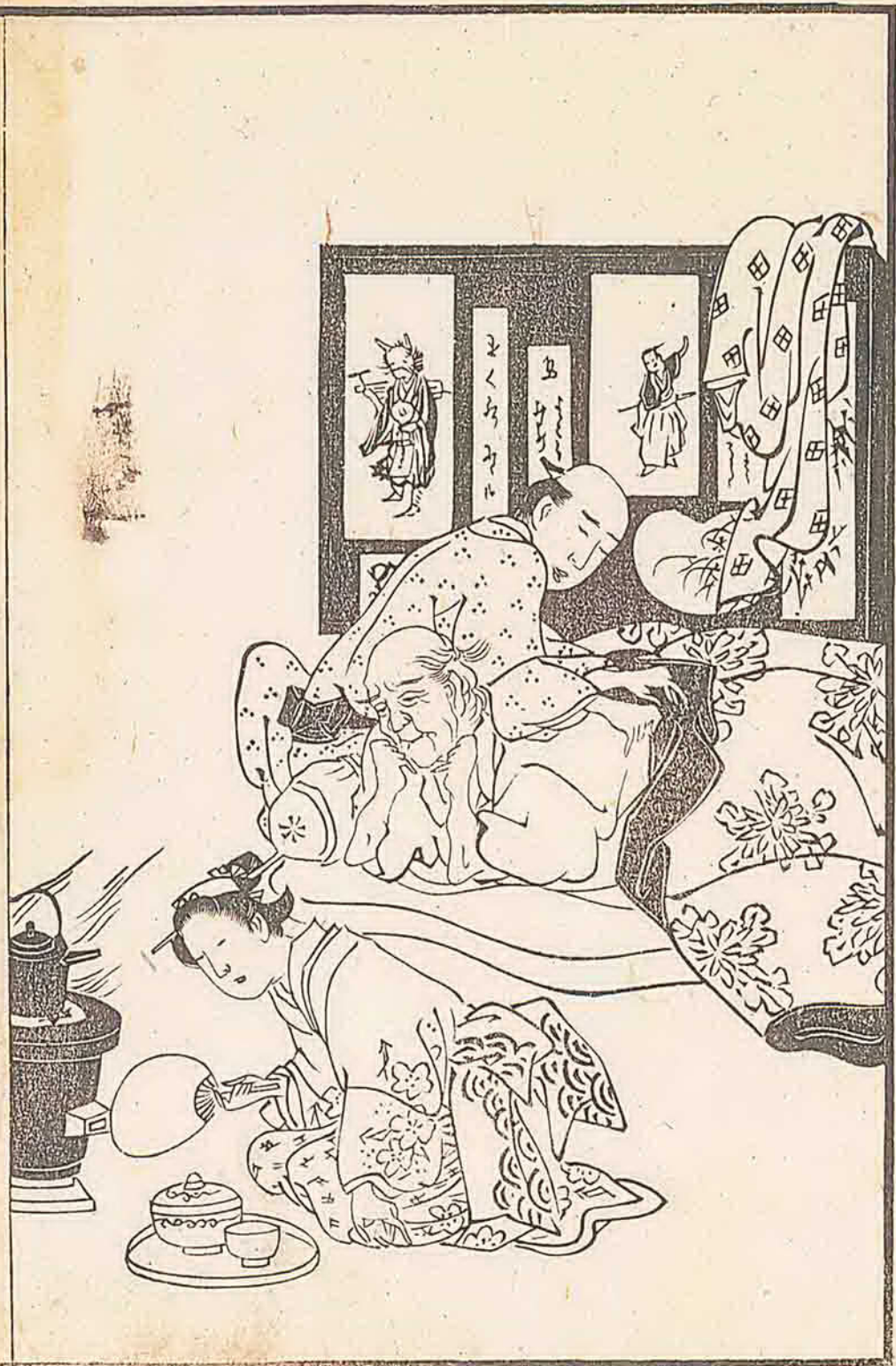
出来うの母のなりりいもよ候〜か〜総む熱き森左衛門
なう〜おひくるや〜奉公あ〜も法を免れば父上乃
多よ里ふもあ〜れんと〜に幸小川裁中町
榎本何が〜の〜年をか〜候〜がら〜
律義山〜てよろ〜つ〜み侍輩中〜も
何〜を〜はめや〜むる〜は
あ〜ある〜も〜おひて熱き侍よ〜
〜候〜け〜候〜も森左衛門の月日を
〜に志〜病お〜けき〜侍よ〜の〜

清めごみのあまのりやれをそとくろの費入さひをよら
 こふくもあまの老の乃あらばひれせよたまひそ
 村乃くよ昔侍よはよい侍んとてあやぐやまび
 おもたきおつめれ乃分なればと後乃あまのよま
 を款さ村長く人ちのきとたりたどく病乃たふ老
 父の事を終んどろよたのみまむる村の人とも熱ま
 米ぐくろろがけのきまげは税入事ふさほのせのなま
 ずおまきぬる人あま表な街つちよまこ子をさらて病
 乃のく人貧きくしやれど何れもくこもれぬ誠よ



うやま—やまを歩つ—うれと御堂のくちらよりてハ叫ま
あ—まきげはや近き世のやまひり—く農工商乃ちらま
者ども牙一親主人の作をまらひぢやもまれば酒
高拵奥よかやそそそ務負車とれり止りをはご
る華ハ放逸す預の徒とあり持ちたれふ田圃を賣
代あ—お款—あつさ款をかけ親は又苦勞せさせ
その—ま—仕合が何—その歌がまらざるれとみうぢ
の—ま—會款ふもおとまらそまにあふ事どもたり
かゝる子供を—ま—くハ親のまらざる子供の子供の—

さう熱き唐の跡をうやみらやうりまのとおのあま
あつたまごか—こふ熱き虫やなる者外ははつ—
虫をくろむが風邪の—こふ小ま—日を病をり
醫師も熱—まをそけとくども志—けく—命
ま—や—りらん熱まあ—この熱と消えけふ表に熱
熱また—うの病あま—床ふ—熱き熱これなげ
さ—ま—もてか—んあ—ま—おひ主人—も熱ぢひて
お—ま—か—ま—いけ—を—医—を—た—の—業—は—も—免—神—や—伝
ま—い—の—麻—食—を—ま—れ—て—か—ん—ご—や—お—こ—る—る—の—れ—



上ノ十

鷹若賞一のふ人乃子たるものそれありておとを
ざう免や

油屋庄右衛門下男七多傳

南所は油屋庄右衛門といふ商人ありその百仕は七多傳
といふ者あり出生る川越近江八王子の村百姓持左の
所ありかき前の庄右衛門十六歳の時抱られそを
より今の庄右衛門は事て實傳なるうまきになれバ
おなりのもろれを家内のふりて後ハま免やあり
まろろれ者のことと仲者賣附は出情一丁つとあ

け子志あるに庄右衛門ふり頼むはき日を経るや終は
をうれく幾もなきおと人といふをいさぐ若輩なりれを
産業もやとお後く既小家行らむとせしうば
七多傳はききの阿まりを人の親類なりびよ友隣あり
まねきよせしやおと主人ハ清友のきよとひまご
若輩もろふおとをいさぐのうきひおろく一向けき
あやゆけおとをいさぐ下されは思ふ下さるべくもなき
立合のるも挨拶はあやうきとてえくこれバ七多傳
又ややい教年賣込い阿さあひを休むとやけりる



上ノ十四

御念^{ごねん}はぞんどもいあもれやめがれもや四十^{よそぢ}解^とりゆを
 あれまでの勤^{つと}方^{かた}少^{すく}く僕^{わが}がんと各^{おのづか}板^{いた}に推^おあふさるはま
 け^{この}強^{つよ}を僕^{わが}はあご終^はいもうせたまらまればふヶ^{この}年^{とし}のうら
 みをえ乃^のさるれ家^{いえ}小^こいし目^めふかけや登^{のぼ}りと
 言^{こと}架^かまぐしきしけるけち^{この}美^{うつく}れあはれに威^{かん}ト
 立^{たち}合^あの流^{なが}すこをせらうて何^{なに}がさこのうら
 えを流^{なが}したやまをうりれよ輕^{かろ}くいれよ
 ぬきけりぬきも七^{なな}まおのれが路^{みち}金^{かね}をここの
 幸^{さい}はれもさるハ下^{しも}部^べあ人^{ひと}ありけるをいふをき

主人の子供産之人のより男の子ありて江戸へ嫁よ
けりや女子きき人 家ふさむら 産おのれも夜勤あや
賣をらひて元金全と江戸同屋なびき當
の借成跡金おも七多借自屋ちりまてみ年
紙子極免了きひそれとてやきり河きなひに
元命をちげらち之年何夜となく 益やれく働
うせざりきバ年紙金あつむを經ふて合もいつ
や直りけちるま内方乃むき免を日ふません
志んにおよぶられバまなひ系とり 縁計の女職を

母親小うを産 産所乃婦人のかこふれみてなつりせ
けりやちもまれば 持重るれとおろ七多求そのときハ
目をむき物志るものしとそが中へおたれおれ
おれせり 産をいふを厚産所の世語なす江戸へ
仲々奉公をつと免させけらるはむむやいふや
七多求あ後まなれとおもひ人をこれ娘の心より
産ひわらひるが娘きんよくはらめ且らりより人
ちけるも七多求志うらまゆよりちかたのしとおひ
依るといひるもの物徳を七多借供く受てされを

あを 我牙ははくくつとてしるるをそんまじりしつらんまめり
るはまされつとやううに結ぶ束の子あまは父母りれみ
ぬく侍をしうばおりのこをいそむ他人のそふつと
たまりんことかたうあなとおあまを人の娘に對し
年比つとておとやをいそむてやううなるを結ぶもかけ
ざるを勿辨あきこりれりけ事神より卯は我るを
知る人なりし衆ゆりたると神を敬ふあをぞは
けあけるをまきく人さても七き席を思ふふこのま
う卯とおもひぬものなりき又女子も末はお入る

そのやうとて年ぐよまきりしはたくりもあはれ
かけ侍るもれり七き束が精力がや年賦金ものこび
うへ今をてらるやとてまもいれみたるあ
始末神も感應まじりけるやことし寶曆二
年申六月二日 政府より七き席を石出され
て目お費文を下したるひてその忠誠を慶賞
し

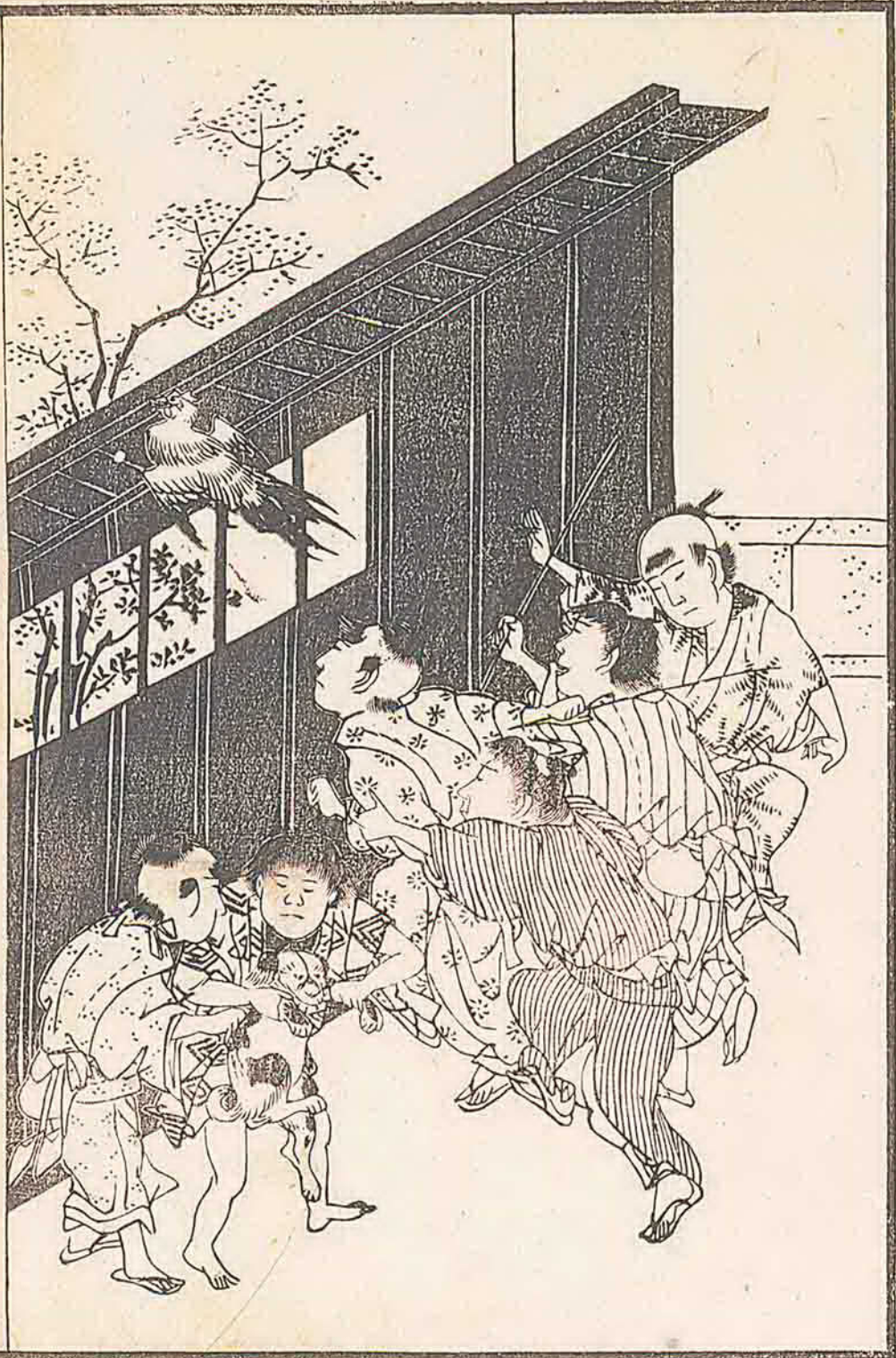
近江谷半右衛門

川越南町よりしるる近江谷半右衛門

異服を何とあふ富家ありは右衛門父母は幸て
 孝やりりつゝとまじかぬべし御れはぬとあまも
 母の小父母のまゝまをかくし是との御父母の作せ
 りまじかぬとあふとまじかぬ何はまれぬとあふ
 見てはかぬとあふ先父母も先は後とまじかぬ
 とておのれををまじかぬとあふ年を法とてか
 孝行
 法とてまじかぬとあふ享保十二年
 政府よりめとて
 その孝を稱したまふそれ子幼名を長松とあふ
 せられつゝお和とて父母のおとをにまじかぬ
 葉子

何とあふとあふのホとては是を法とてか
 孝行
 法とてまじかぬとあふ享保十二年
 政府よりめとて
 その孝を稱したまふそれ子幼名を長松とあふ
 せられつゝお和とて父母のおとをにまじかぬ
 葉子

さぞか— 孫^{まご}母^{はは}— まりんと— 擧^あむざやどあぞ、あせを
 その親^{おや}— み 誓^{ちか}まあこ— あてて人^{ひと}乃^{なり}おとよぶ登^{のぼ}くも
 かりき十^{じゅう}之^の口^{くち}業^{わざ}れあろものまれむ子^こ習^{しやく}おの習^{しやく}古^{ふる}を
 ぬまばあ父母^{ふぼ}のきげんたうかひ何^{なに}ぞ 傳^たせご— 何
 れバそれ事^{こと}— をま— おこれひあ— せも父母^{ふぼ}の命^{いのち}小^こ遠^{とほ}
 あ— — 何^{なに}あれば見^み出^でて着^{ちか}ひ乃^{なり}のり— せも傳^た
 出^で入^いはらう— せ— 何^{なに}をいんぎんに洗^{せん}と先^{せん}見^み出^で乃^{なり}
 若^{わか}者^{もの}子^こどもにのり— せ— 何^{なに}をいんぎんに洗^{せん}と先^{せん}見^み出^で乃^{なり}
 つま— けきバ父母^{ふぼ}と長^{なが}松^{まつ}盛^{せい}人^{ひと}よあ— せ— 何^{なに}をいんぎんに洗^{せん}と先^{せん}見^み出^で乃^{なり}

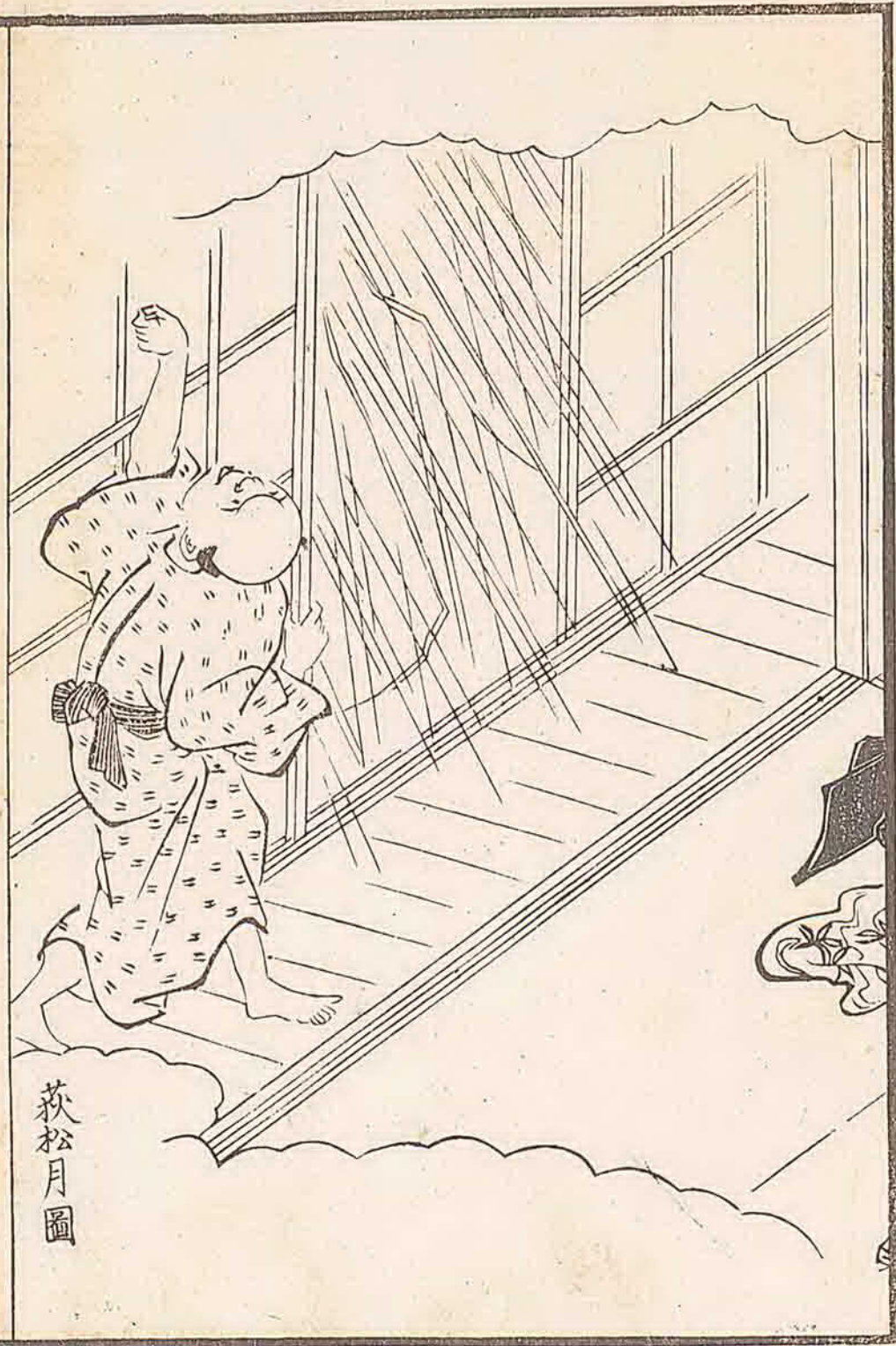




芝のほのたけはけり来たのきくよはなぐんをやせん
 けくろふ長松の妹あり名を清とよぶ父母あまよこ
 むき先と雲一たまひくふそ松が分をり夜服飲食
 ひとよ話一外より何ぞ到来の品あまきバ母親まが清
 おつくりし紙ふて長松ははくくも志のありけれど女子れ
 きりあるころよとけあがけいのはいそねをきくぬあ
 やく心む母親これとよらんト長松このをくひ何き
 あま母親のこまバそ松おそれとあ一父親ハ肉くみ
 てその好めおきさよふしつたけきバ母親とにきん

よく見ゆる長松あんどのおとひとめかく河原こ
と度くまて妹を弁へけうひまで長松のち終づひ
おーむくして長松たりさるほどに年月つとて
長松幼くなまへは中右衛門と名を改め同所北町と
いふ所の水村何某の娘を貰ひ妻とあり家成の儀を
うけ父を恒山と名を替別まかくれおとまうひ世に
のれてげり中右衛門妻もいふまうやうかすまれま
乃かぞいりまはるさほと見たりひあこまをとて
父母の庵へ移りきだんをうかひ夕まを食ふりやど

手づく細味し父母のあはれよかなふやうにとりこ
ゆりき常は父母れ食事を夫婦してうらうかまを
あも下給あふおつとびかおひあふよま飲食
たまふをえてるおよあうよ終るじ父母のこまよかおぬ
るれどもまきまよてもいと嘆きまよ又おたりぬ暴風大雨
おどれ節を深更よりどもまゆまに庵へまゆを移ん
ご後まよひまゆせまゆの三伏の隻うたれが母あ人
雷哉おらにおそれまゆもおろくと音のまこゆ
押入戸板のうらまかまき半右衛門夫婦欠つけ見せより



萩松月圖



上ノ二十一

若者ゆふ人づゝ糸里香をたき鳴神のちがまゝまで伽を
あしけるは右はつ帯は夜いたるちぬのちと形音の程
を父の肩腰あどなでさとりたつゝそれ中のをりまで
ちがまゝ又あま唐土倭の古事あんど物結ねむまの
いゝまゝいよちをゆまゝい結ゆゝ何まはあまゆりける
時およりてお父の傍におうたお徳あどまで兼文ぬれが
笑のみゝゝうみいぬ家こゝなご父くちを志つたりゝを
たつゝいの下あど兄あれぬ事のおよて叫き笑ひゝるも
むべあるれ父を稚子れごゝ早のひ孝子ハ童のもの結ぶりする

上ノ下ニ

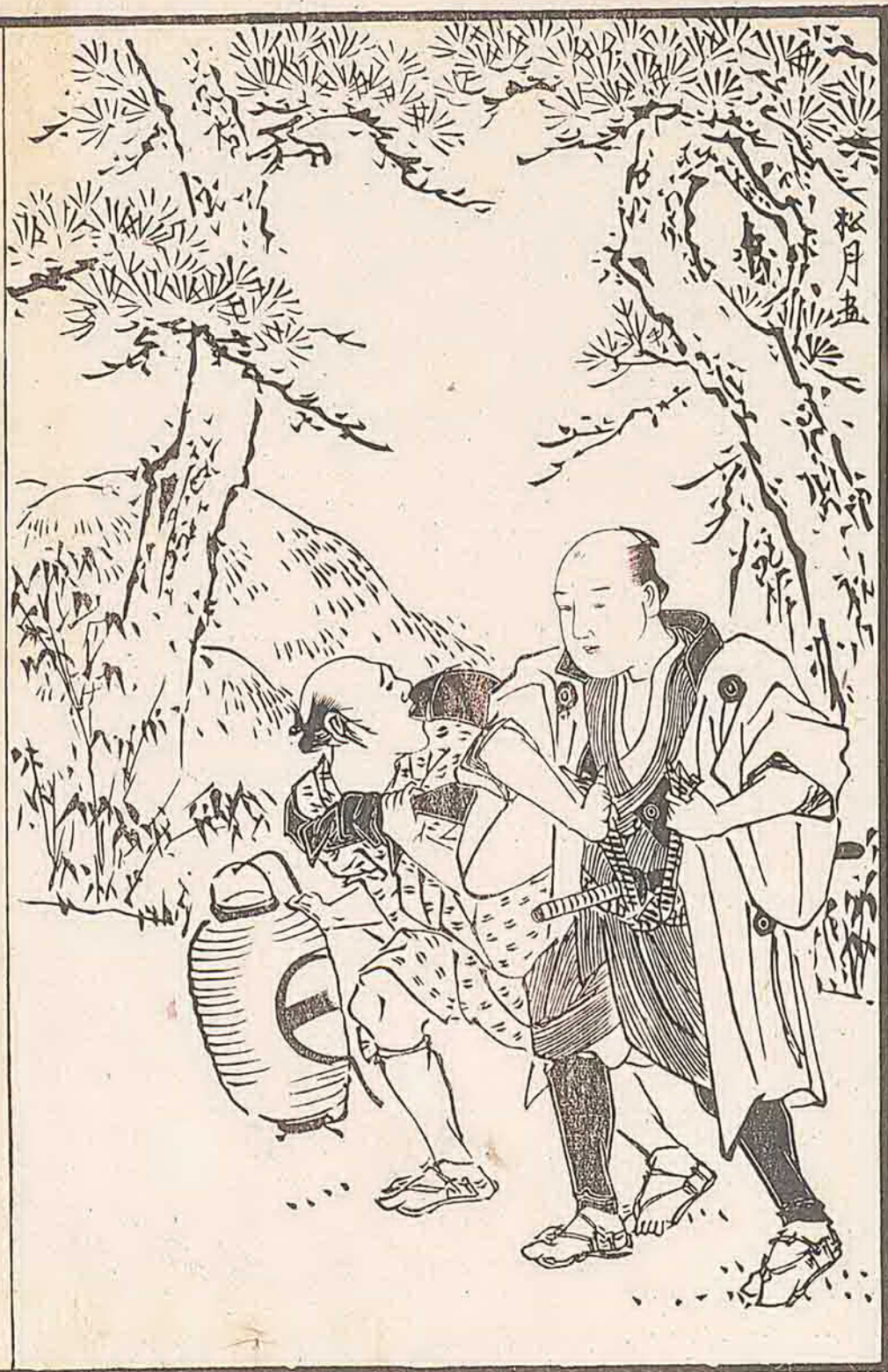
さ偏あそりかつて何ゝこまるあまゝ是れあん父母一親
愛敬の至るといせんうま孝子あまゝ何りといひやも
け人乃ちまきらん人を末弟もおよびおまゝ父直山
素より痔の痛までおのひをさめてわくはるみにもえ
かぬるを中右あつるに志れが兼業を用ひ附業も
よて療治もといひ治せび只肛門を何ゝめ脱肛が
おさまればそのまゝいひみもさるなり孝子さかると考へ
そのうち痛るせつち已がはまで臭を吹け何ゝち勢
まじばあちよゝちなんゆゝゝばあさぬおゝかや脱肛を

は子ゆくみりてち音よておしりき体りくつが交り
そくくくくくをのづれて父上も辨ふと後とび宣ひけるを
穰乃場のむさと後ききと母もゆく老るるり親子たれ
ばとく勿神あり以來をそ用ふめされよとありくれバ
半右清つらあづくしてはよそをぬしりつとも脱肛おさま
らざまじばはよみくみ療治しける是よてりてこの難後
をのぞきくるさるはよま今年申の三月末はう
恒山文母半右清つが書に戸一との指まできくこと村きの
新くらのぞく白子のちよりてちとちりて体りくち恒山

係よやまのちを抱されくきを早花辨ま川裁一志せ
ける半右清つけよしやとやとやとやとやとやとやとや
取ものもさるちかちかちかちかちかちかちかちかちか
は抱りもびてちかちかちかちかちかちかちかちかちか
これあるん中風の病なるを病一危角一川裁一はれ
きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
養生とてしどもちかちかちかちかちかちかちかちかちか
ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか
かぎやちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか

心々々々ぬんご後よりおこあひけらそれとやると 返善
 借書おこさるびあさる 脚前小香を煙ゆべと
 雲伏をそあて念佛一足ゆせるあさくはのくか
 半右衛門積年の至孝を挙て祿位々々まばその何
 まを町の役人よき
 政府子孫へ出ければ
 君勝子遊一二代の孝を感せるとたまひ 越お給お抱
 を賜りてりつ々それ孝徳を賞せると 于時寶曆二
 年申六月二日のあつた

政府子孫へ出ければ



論

或人問孝子家富後者も抑々く何れ是らざる
 おもひがまきやなまきは孝もこれほどのけあめあせ
 ざらんう河あぢらよ愛敬の至るハ心うんぞこの
 人乃お小まらん人もまへへ養て心も愛捨バ
 うやまひ思ふげ教之は愛たふげ愛わちそ
 なるもさうもさうやほひ捨てうも記をき所
 まど愛捨小似てかさぢうやまひたうさるに
 似て思まらるもけ人あらんはうに愛敬の至り

なまじや 於又孝子 陰徳乃あはるふうくそのを
 とうぬらうをあく 宝曆六年のころ夫婦の
 者妻居れ位およて在るがまへへ 又 事
 いふなぐくをぬへ 妻産をせしに男子うまれ
 血治らびして 妻をえうれくうせよかりぬも
 うまき子も息女あてを産まやめく妻の棺小
 入るきなむくさやきけるを中右馬つはくへて
 ありその教たる人小貫ひくけ連まうも里子に
 はらうまへへと教もする人をたづひる小文塚

新田といふ所はあづき育てんといふ人あり
これに早々の村へつづけて七代までをだて
八代の子百姓乃所へ書子につづりける
又そは板系町といふ所は駕籠をかきせしむ
りいとせる者をも傷寒をまづひあやむれ
る甚しき妻あるものもおれど病はたやむれ
なるむとめを人のこと湯茶食ふおのせ
まもくもなり隣近所の人もやまひおそれ
ちづづく者もなりかゝる類のよき中右田の

とてはくおとひ多敷やく天北人の靈物見
殺しよちたははとがそり小医師をたのみ
つづり外に老女を雇ひ茶食事ホ介抱つ
しそれより日をおさふとて食ふのさうまで
およびぬ十日ほど経て全く平愈しぬ
又或いふ人極端なことをして知志
ぬ方令鳥目白米やどその家へおそくに
鏡戸をあけそとを投込てゆりさうく自分
の名をかきつづりかきけら粗帯れり

なりとぞ報^{こたへ}えげとば 悔^{くわい}も累^{つら}も

恒山^{つねざん}代^よより 文政^{ぶんせい}元^{もと}年^{ねん}今^{いま}の 中^{なかつ}右^{みぎ}弟^{あに}つま^まで 五^ご代^{だい}

あや 新^{あたら}ち百^{ひゃく}とせよ およむむう^うふか^からう^うび^び吳^ご

服^{うしろ}商^{あひ}内^{うち}をい^いぬ^ぬあ^あき^きこ^こい^い 珠^{たま}子^こ二^に代^{だい}の 孝^{こう}徳^{とく}且^{かつ}

陰^{いん}徳^{とく}の^のい^いら^らど^どる^るれ^れな^なる^る 身^み一^{いつ}の^のく^くこ^こい^いを^をお^おひ^ひ

武州川越善行録卷上終

トヨ跡

上ノ二十七終

